



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京都府立菟道高等学校】

1 実践テーマ	【 I ・ III ・ V 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球部員 ・ソフトボール部員 ・第1学年生徒 ・サッカー部員
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 () ② 行事名 (<u>課外活動</u> <u>特別講演会</u>) ③ その他 () <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会における自他の尊重
5 取組内容	<p>(1) 平成30年8月22日(水) 9時～15時 「府立学校交流ソフトボール大会」</p> <p>府立3高等学校と3支援学校とのソフトボール交流会に参加した。これまで、本校ソフトボール部生徒と宇治支援学校生徒間では、毎年ソフトボールの合同練習行ってきた。今回、54名の生徒が参加し、府立高校生徒と支援学校生徒との4合同チームを結成し、それぞれ対戦した。生徒たちは互いに声を掛け合うなど助け合いながらプレーし、チームワークを築いた。試合の後はピッチングと内外野の守備練習に励み、各チームより数名がホームラン競争に出場した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

(2) 平成30年9月22日(土) 13時～16時
「京都府立宇治支援学校高等部生徒との卓球交流会」

今年で4回目となる、本校卓球部生徒と府立宇治支援学校高等部生徒との卓球交流会を行った。競技力の向上や共生社会の形成に寄与するスポーツ力の育成を目的として地元の支援学校生徒と卓球を通して交流を行った。支援学校の生徒の中には車いすを自由に動かし、実戦形式のラリーを続けたり、またサポートが必要な生徒に対して部員に本校生徒が指導した。



(3) 平成30年11月1日(木) 15時35分～19時
「パラリンピック・アーチェリー選手 上山友裕氏による講演会」

リオデジャネイロパラリンピック・アーチェリー出場の上山友裕氏から、第1学年生徒対象に「目標に向かって自分のできることを貫く大切さ」をテーマに講演をしていただいた。自身の原因不明の両脚がまひした経験を経て、健常者とほぼ同じルールのアーチェリーを続けた。脚は不自由になったが、自分のできることをしっかりとやることが大切であると力強く話された。

講演会後は、アーチェリー部員15名に対して、技術指導とともに集中力が求められる競技におけるメンタルの切り替えの重要性についても話された。



	<p>(4) 平成31年1月19日(土) 9時30分～12時30分 「本校サッカー部生徒と宇治支援学校生徒とのサッカー交流会」 本校サッカー部生徒20名、宇治支援学校生徒6名によるサッカー合同練習会を行った。開会式後、参加生徒の自己紹介、ストレッチ・走り込み・鬼ごっこ・ボール回し等の準備体操を行った。 その後、近距離、遠距離でのパス回しによるボールさばきを確認した。試合は、本校生徒と宇治支援学校生徒の混成チームを編成し、その中に両校の教員も加わり、一試合前半15分・後半15分で2試合を行った。閉会式は宇治支援学校生徒が担当した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6 主な成果	<p>スポーツをとおして特別支援学校生徒と交流を数年間行ってきており、障害の有無に関わらず、スポーツ交流を通して他者を理解・尊重する資質や能力を身に付けるきっかけとなっている。競技中、好プレイに対して声援や拍手を送るなど、互いを思いやる態度が随書に見られた。</p> <p>リオデジャネイロ パラリンピック・アーチェリー7位 上山友裕氏の講演の中で、「変わらない人は勝てない」、「苦しいときにこそ継続する」等の言葉から、受講した生徒はそれぞれの目標を持ち努力することの大切さを学んだ。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・各競技において、学校間で配慮すべき事柄について事前の情報交換を行った。 ・チーム編成に際しては、両校生徒の混成とした。 ・障害に応じ、交流試合独自のルールを設定することにより、競技者の能力を発揮できるようにした。
8 主な課題等	特になし。
9 来年度以降の実施予定	ソフトボール、卓球に関しては、過去数年間交流を行っているため、次年度以降も継続する予定です。また、次年度も府立学校ソフトボール交流会にも参加する予定です。